

一〇一五年四月二五日

拓かれし街のなぞへに躊躇燃ゆ
トロ箱にパセリの育つ島の路地
喬木を絡め絡めて懸かり藤
新緑の故郷は水の音の中

一〇一五年四月二四日

蒼天へ溶け入る色や棚の藤
さらさらと囁くごとく竹落葉
手を休め稚児に乳やる草刈女
外洋を裂く航跡に風光る

桟橋の荷役横切る海つばめ
お試しのショートステイへ春帽子
春の陽を呑み込む河馬の大欠伸
一〇一五年四月二二日

深々と礼してたらの芽を貰ふ
春一日かけて百鉢蘭手入
藤房の天地返しに風いなす
幾度も船の汽笛や沖霞
筆先のやうに菖蒲の蓄立つ

むべ
糠の香を纏ひ筍茹であがる
なつき
緑摘む病後の手指励ましつ
うつぎ
ゴム長につきて乾きしくづ若布
ほたる
なつき
一〇一五年四月二〇日

ゴビからと聞けば許せる黄砂かな
幼から貰ふ手作り染たまご
袖触れて花山椒の香り立つ
春の瀬戸巨船小船とせめぎあひ
窓越しに囁り移り行きにけり
故郷の昔のままの紫雲英畠

よし女
むべ
みきお
澄子
よし女
むべ
みきお
澄子
あひる
あひる

明日香
あひる
うつぎ
和繁
うつぎ
明香
あひる
うつぎ
和繁
うつぎ
一〇一五年四月一九日

国産みの島へと延びる橋朧
若葉影縫ひゆくフロントガラスかな
茎立の菜花お安く売られをり
桟橋埋むなぞへの花菜畠

なつき
せいじ
みきお
澄子
なつき
せいじ
みきお
澄子
一〇一五年四月一九日

うつぎ
むべ
澄子
うつぎ
せいじ
せいじ
一〇一五年四月一九日